慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	序
Sub Title	
Author	堀江, 湛(Horie, Fukashi)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1993
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.66, No.1 (1993. 1) ,p.5- 6
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	米津昭子教授退職記念号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19930128--005

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

序

米津昭子教授は、来る平成五年三月をもって、慶應義塾大学法学部教授の地位を定年により退かれる。

第二次大戦直後の昭和二一年、慶應義塾大学は女子学生に正規の学生としての門戸を開いた。この結果、時代の先覚者として有為な女子学生が慶應義塾に学ぶことになったが、米津教授は昭和二三年、人見康子名誉教授につぐ二人めの女子学生として、中谷瑾子名誉教授と共に法学部に入学され、二五年九月旧制最後の学生として学窓を巣立たれた。教授は在学中、津田利治先生に師事して商法学を研究され、卒業後はそのまま塾に残られて研究者としての道を歩まれることになった。

今でこそ女性の商法研究者は少なくないが、当時は商法学会の紅一点で、数多くの男性研究者に伍して学会で討論なされる姿は、まことに颯爽たるものがあった。教授は日本最初の商法教授としての栄誉を担っておられる。

商法、特に会社法は、明治の中頃に大陸法の影響を受けて立法され、主としてドイツ法系に属したが、第二次大戦後、アメリカ法の影響を受けて大改正されて今日に至っている。教授はこの過渡期に商法学者として出発され、いちはやくアメリカ法系の解釈論を導入され、わが国商法学会の重鎮となられた。また平成四年には学部の長老として部内の衆望を担って、慶應義塾評議員会の法学部選出評議員に就任され、慶應義塾の経営と学務行政に参加され、学生

時代から数えれば四五年間にわたる慶應義塾大学での生活の有終の美を飾られた。

米津教授はとにかく明るく社交性に富み、行動的であられる。たまたま教授は私の指導教授であった中村菊男教授の妹さんと同年であられた。そんなわけで中村教授は私共弟子たちがお供した食事の会に気軽に米津教授を誘われた。また同門の先輩、常葉学園富士短期大学の学長、利光三津夫名誉教授も米津教授とは気の合う同級生であられた。だから学部の会議のあとなどよくお誘いを受けて利光教授とともに米津家にお邪魔し、夜遅くまで御家族の団欒の一員に加えて頂いた。いずれも若い日の懐しい思い出である。定年制が学部の新陳代謝を促し、学部の活力を維持する上でやむをえない制度であることは十分承知しているものの、若い頃から学問においても人生においてもいろいろ親身の御指導を仰いだ先輩たちが、定年で一人去り二人去り法学部を離れてゆかれることは、情においてはまことに忍びないものがある。しかし、教授は暦の上でのお歳はともかく、とにかくお若く活気にあふれておられる。今後も学部の外から、末長く学部の発展のためにお力添えを頂きたいと思う。

平成五年一月

法学部長　堀江湛